

次号の特集予告

280 巻 12 号(2022 年 3 月 19 日発行)

熱傷治療の進歩

企画：櫻井裕之(東京女子医科大学形成外科)

- ・重症熱傷は外傷のなかでも侵襲が高度で、大量の医療資源・人的資源の投入を必要とする。受傷後早期は大量輸液と循環・呼吸管理などと並行して、熱傷創部壊死組織(焼痂)切除と植皮術による皮膚再建を要する。
- ・広範囲熱傷においては、患者自身から採取できる皮膚面積は限られているため、日本スキンバンクネットワークによる同種皮膚の役割は非常に大きなものである。
- ・社会復帰に向けて大きな障害となる、瘢痕拘縮に対しては形成外科的再建手術、リハビリテーションによる機能回復訓練、瘢痕の質的改善を目的とした再生医療などが近年の進歩として注目されている。